



Bーぐる沿線協議会ニュース

第16号

平成29年2月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティ担当） 03-5803-1387

平成28年7月15日に沿線協議会が開催され、事務局から平成27年度の運行実績、日立自動車交通㈱から決算の報告、Bーぐる友の会から平成28年度活動計画に関する説明がありました。

2ルート計94万5千人の利用。目白台・小日向ルートも乗車基準を突破

平成27年度のBーぐるの年間利用者数は千駄木・駒込ルートが501,409人、目白台・小日向ルートが444,483人、両ルート合計で945,892人となり、平成26年度と比較して2.4%の増加となりました。

千駄木・駒込ルートは、開業2年目の平成20年度以降、多少の変動はあるものの年間50万人前後で横ばいで推移しているのに対し、目白台・小日向ルートは対前年度比5.9%増と、運行開始以来順調な伸びが継続しています。

月別にみると、両ルートとも春夏に利用者が多く秋冬に利用者が少ない傾向がみられるものの、千駄木・駒込ルートでは年間を通じて区で定めている公的支援の目安（一日当たり1,200人）をクリアしています。目白台・小日向ルートでも年間平均で1,214人となり、今年度初めてこの基準を突破し

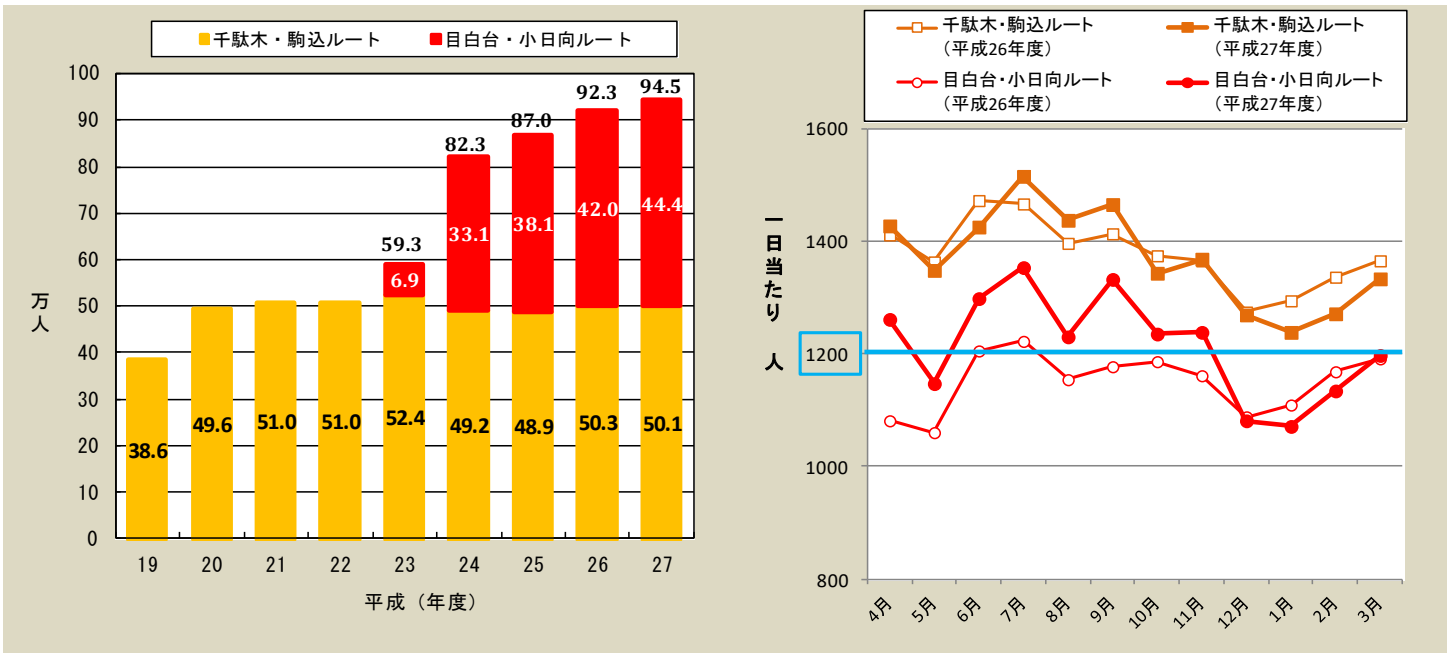
ました。

続いて、日立自動車交通㈱の西窪委員から平成27年度の決算報告があり、千駄木・駒込ルートが約790万円の赤字、目白台・小日向ルートが約1,480万円の赤字となり、両ルートとも前年度に比べ収支は改善したものの、区補助金予算上限額が支出されたと報告されました。加えて、昨年来の燃料価格の高騰が一段落ことから燃料費支出が例年並みに戻ったことと、若手運転士を積極的に採用した結果、人件費を抑制することができたと説明がありました。



決算報告をする西窪委員

Bーぐるの乗車実績の推移（左）と月別乗車実績（平成26・27年度）



Bーぐる友の会、洗車ツアー等のイベントを企画

Bーぐる友の会は、沿線協議会の公募委員を中心に活動してきたプロジェクトチームを平成 25 年 12 月に改称し活動している団体です。会を代表して饗場委員が平成 28 年度の活動計画を説明しました。

元田会長から、「洗車ツアーや道案内ボランティア等、活動が充実してきた印象。来年はBーぐるの運行開始から 10 年目の節目の年でもある。何か楽しいイベント等の企画を期待している」とのコメントがありました。



饗場委員

Bーぐる友の会 [平成 28 年度活動計画]

- ①沿線地域情報番組の制作
- ②車内情報誌 beople の発行
- ③ Bーぐる親子洗車ツアーの開催
- ④ Bーぐる車内の飾り付け
- ⑤沿線のイベント時の道案内のボランティア



6月のあじさいまつりで、Bーぐる 12 番白山駅バス停前で道案内

オリンピックに向け、バス停留所等の多言語対応を推進

文京区では 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、Bーぐるのバス停留所の英語併記を進めており、7 月末迄に全バス停留所の設置が完了する予定です。

停留所名の英語表記に関しては、これまでも沿線協議会で検討してきましたが、〇丁目というアラビア数字の表記に関する山岡委員の質問に対し、古矢区民課長から「文京区では東京都が定めた標記方法

に準拠して標準的な標記方法を定めているが、誰が見てもわかりやすい表記となるよう努めていきたい」と回答がありました。

また平成 28 年度中を目途にBーぐる車内で Free Wi-Fi が利用できるよう準備を進めており、導入後は車内モニターと連携した PR 等にも活用していきたいとの説明がありました。



編集後記

早いもので、Bーぐる千駄木・駒込ルートが運行を開始してから平成 29 年 4 月で丸 10 年になります。この間、目白台・小日向ルートが開設されただけでなく、ダイヤを調整して乗継ぎを便利にしたり、バス停を新設したりと、小さな改善を重ねてきた関係者の皆さんには頭が下がる思いです。

来年は 10 年という節目の年。記念すべき年に、年間乗車 100 万人が達成できれば、こんなに素晴らしいことはないと思います。(N)